

今までの取り組みを紹介

ハッピーラブマーケット

パルコシティで開催された「ハッピーラブマーケット」のイベント会場で、交通すごろくを実施(令和3年2月14日)



バスの乗り方教室



浦添小学校で開催したバスの乗り方教室では、バスの乗車体験や整理券の取り方、料金表の見方を親子で体験(令和5年1月28日)



モノレール車両基地見学

モノレール車両基地見学ツアーでは、乗車体験中にモビリティ・マネジメントツールの紙芝居を活用し、交通環境学習を実施(令和5年3月19日)



●都市計画課
●電話 ☎(876) 1244

問い合わせ ↑

どうして、 モビリティ・マネジメント教育が 必要なんだろう...?

「モビリティ・マネジメント教育」とは、私たち一人一人の移動手段や社会全体の交通を「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人材を育てることを目指した教育活動です。

幼少期からモビリティ・マネジメント教育を通して「交通」について学び、大人になった時に、環境や交通渋滞、公共交通がないと困る学生や高齢者への配慮から、「マイカーではなく、公共交通を使おう!」といった考えを育成することが必要です。今までは、体験やイベント



を通して学習して来ましたが、今年度から、市内の小学校では4年生を対象に本教育が始まります。子ども達だけではなく、皆さんと一緒に交通について考え、少しでもクルマに依存しない生活を目指しましょう!

昨年実施した体験学習の様子



ふり返りでは、日々の移動について自分たちに「なに」ができるかを発表。授業を通じて、児童の多くが「車と公共交通のバランスの良い移動」について理解することができました。

授業では、ICT教材の「交通すごろく」を用いて渋滞を引き起こす要因や、クルマの使い過ぎが環境に与える影響などについて学習しました。

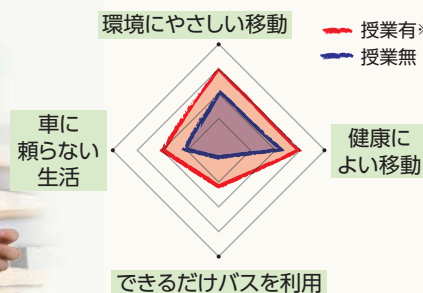


私自身、今まで交通にあまり目を向けられていませんでしたが、体験学習を通して、生徒と一緒に交通について考える良い機会になりました。学習以降に生徒から「学校まで歩いて来たよ」「家族とパルコまで車を使わないで行ったよ」などの反応もあり、今後教育が始まることで、生徒や親御さんが自分事として考えるきっかけになり、一人一人の行動に変化が出てくるのではと感じました。



宮城小学校 比嘉 大地 先生

● 移動の心がけに関する意識 ● 市内小学5年生への意識調査(令和4年)



※4年生の頃にMM授業を実施した児童

モビリティ・ マネジメント教育 Mobility Management education (通称:MM) はじまります。



モビリティ・マネジメントとは?

私たちの暮らしとは切っても切り離せない「交通」。沖縄県を含めた地方都市では、特にクルマに依存する傾向があります。クルマは必要で、とても便利な交通手段ですが、便利な反面、慢性的な渋滞や交通事故の増加、排気ガスなどによる環境問題への影響があります。また、公共交通の利用者離れが進むと公共交通の維持が難しくなり、運賃高騰だけではなく本数の減少や、路線が廃止する可能性もあります。

そのため、通勤や通学を含めた日常生活の移動を「マイカーだけではなく、公共交通や自転車、徒歩などの多様な交通手段を、状況に応じてうまく使い分ける状態」へと少しずつ変えていくことで、環境への負荷を軽減したり、自身の健康増進につながるなど、環境にも自分にもうれしい効果が生まれます。

このような「交通・移動(モビリティ)」を一人一人が自発的に「改善(マネジメント)」する一連の取り組みを、モビリティ・マネジメントと呼びます。



体にも、環境にもやさしい
生活スタイルに変えてみる



沖縄県民の、クルマ依存のスタイルを

公共交通や自転車、
徒歩での移動を「選択肢」に
— マイカーだけに頼らない生活スタイルを考える —